

● [朝日新聞デジタル](#)

「今日は泣かないよ」、母は殺害された息子に告げた 情報求め 15年

樫村伸哉 2023年6月27日 6時00分



[情報提供を呼びかける橋本清勝さんの父充史さんと母真由美](#)

[さん=2023年6月25日午前10時44分、金沢市久安3丁目、樫村伸哉撮影](#)



金沢市久安2丁目のアパートで会社員の橋本清勝（きよかつ）さん（当時22）が殺害された事件は、27日で発生から15年になる。事件解決の手がかりを得ようと、遺族や支援者、石川県警の捜査員らが25日、現場近くの街頭で情報提供を呼びかけた。

「ささいな内容でも結構です」。約50人が交差点や商業施設でドライバーや買い物客に声をかけた。協力を求める横断幕やのぼりも。チラシやティッシュを手渡すのはコロナ禍で中断しており、4年ぶりだ。

清勝さんの父充史（あつし）さん（57）と母真由美さん（58）もパネルを持って道路脇に立った。充史さんは「事件が解決していないことを伝え、情報提供をお願いしたい。清勝の無念を晴らしてください」と話した。

真由美さんはこの日朝、自宅を出る際に「行ってくるね。きょうは泣かないよ」と、遺影に声をかけたという。「清勝と私の時間は15年前で止まったまま。15年で節目ではなく、犯人検挙の時が節目になる」

清勝さんの携帯電話は今も見つかっていない。両親は「事件解決のきっかけになるかもしれない」と解約せず、息子宛てに届く明細書の料金を支払い続けている。

事件があったのは2008年6月。アパート2階の一室で、一人暮らしの清勝さんが頭から血を流して倒れているのが見つかった。フライパンで何度も殴打されて死亡したとみられる。

県警は昨年、事情を知るとみられる男性の似顔絵のポスターを作った。男性は08年6月27日午後8時半ごろ、アパート方向から現れ、駐車場で別の男性と合流して歩いて行く姿が目撃されたという。20代とみられ、身長170～175センチのやせ形。白の線が入った黒系のニット帽をかぶり、黒系のTシャツ、紺系のジーンズを着用していた。

元警視庁幹部の土田猛さん（75）も街頭活動に参加した。00年末に東京・世田谷で起きた一家4人殺人事件の捜査本部がある成城署で、署長として捜査を指揮した。退職後の09年、殺人事件の被害者の遺族らが加わる「宙（そら）の会」をつくり、特別参与を務めている。「科学捜査は日進月歩で、わからなかったことが解明される可能性に期待したい。時効はなく、犯人は永遠に追われる身。人の心を取り戻し、出頭してほしい」

事件当時に県警捜査1課の重要犯罪特別捜査隊長だったOBの新谷正進（せいしん）さん（72）は街頭活動後、「現職の警察官のみなさんが頼り。一日も早く良い報告をしてほしい」と署員らに呼びかけていた。

捜査本部のある金沢中署によると、5月末までにのべ約4万9千人の捜査員がかかわり、約1600人から話を聴いた。約270件の情報が寄せられ、30人態勢での捜査が続く。県警の木谷力・捜査1課長は「絶対に犯人を検挙するという思いで、一丸となって捜査する」と話している。情報提供は金沢中署（076・222・0110）へ。（樫村伸哉）

金沢・久安殺人事件から15年、情報提供求めビラ配り...遺族「時間止まったまま」

読売新聞 によるストーリー・昨日 20:58



看板を手に情報提供を呼びかける充史さん（右）と真由美さん（25日、金沢市で） © 読売新聞

金沢市久安のアパートで会社員の橋本清勝さん（当時22歳）が殺害された事件は27日、未解決のまま発生から15年を迎える。25日には、関係者らが現場周辺で情報提供の呼びかけを実施。橋本さんの両親は「今回の呼びかけが最後になってほしい」と一刻も早い解決を願った。

橋本さんは2008年6月29日、自宅アパート2階で頭から血を流して倒れているの

を、交際中の女性に発見された。同27日夜に、鈍器で殴られ殺害されたとみられている。

呼びかけには、橋本さんの父・充史さん（57）や母・真由美さん（58）、県警の捜査員ら約30人が参加した。情報提供を求める横断幕を掲げたほか、コロナ禍で中断していたビラ配りも4年ぶりに再開し、通行人に「15年前の事件の情報を集めています。ささいなことでも構いません」と声をかけた。

県警はこれまでに延べ約4万9000人の捜査員を投入し、約1600人から事情を聞いた。事件発生から今年5月末までに、計約270件の情報提供があり、昨年6月に現場付近で目撃された男性の似顔絵を公開して以降、関連情報も35件寄せられた。現在は30人態勢で捜査を続けている。

金沢中署の南野広明署長は「収集した情報を分析し、科学技術も駆使して捜査をしていく」と話している。情報提供は同署（076・222・0110）へ。

■消えた携帯電話、解約せず

事件の発生から15年を前に、橋本さんの両親は「清勝との時間は止まったままだ」と胸中を明かした。

真由美さんは「出来ることなら、今の清勝を見たかった。何年たっても、（犯人が）罪をつぐなうまで節目はない」と吐露。充史さんは今も清勝さんの仏壇の前でビールとおつまみを手に晩酌し、「昔こんなことあったよな」と語りかけ、生前を思い出すという。

現場からなくなったままの清勝さんの携帯電話は「どこかで電源が入ればGPSで場所がわかるかも」と解約せずにいる。毎月家族のもとに届く料金の請求書に記される「橋本清勝」の名前を残しておきたいとの思いもある。

2人の心の支えは、遺族会や家族の存在だ。

当時14歳だった弟の元輝さん（29）は「体力的にも精神的にも2人を支えたい」と両親とともに活動する。橋本さん一家と家族ぐるみの付き合いがあり、遺族らでつくる「清勝会」の会長を務める北市英二郎さん（57）は、清勝さんを「小さい頃から優しくて礼儀正しく、ありがたいがしっかりとと言える人だった」と振り返り、「今後も協力するので、早く犯人を捕まえてほしい」と力を込めて語った。

30人体制で捜査中...金沢のアパートでの男性殺害事件から間もなく15年 遺族が情報提供呼びかけ

6/25(日) 18:55 配信



石川テレビ

金沢市内のアパートで男性が殺害された事件が、未解決のまま27日に15年を迎えるのを前に、遺族や警察が25日街頭で情報提供を呼びかけました。この事件は2008年6月、金沢市久安2丁目のアパートで会社員の橋本清勝さん（当時22歳）が何者かに殺

害されたものです。 事件は未解決のまま、27日に発生から丸15年を迎えますが、橋本さんの無念を晴らそうと遺族や警察は25日、事件現場周辺の街頭で情報提供を呼びかけました。橋本真由美さん：「私が生きている間に必ず検挙してもらってという思いで、今日もこれが最後という思いでみなさんをお願いに上がりました」 警察は去年、事件について何らかの情報を知っている可能性がある人物の似顔絵を公開しましたが、事件解決には至っておらず、現在も30人体制で捜査を続けています。